

特定外来生物

国内外来種

重点対策外来種

モリアオガエル

学名 *Rhacophorus arboreus*



本州に分布する日本固有種のカエルで、泡状の卵塊を樹冠に産み付けることで知られています。絶滅危惧種に指定されている地域もあり、福島県や岩手県ではモリアオガエルの繁殖地が天然記念物に指定されるなど、地域ごとに保護されている種です。

神奈川県では数十年前から相模原市等で生息が確認されていますが、飛び地的な生息地であることや古い記録が無いことから人間が外部から持ち込んだ人為分布である可能性が高いと指摘されています。

三浦半島にも本来分布していませんでしたが、2010年頃から公園の池等で観察されるようになってきました。確認されている場所は、比較的アクセスのしやすい水辺で、それぞれが離れていることから、人が放流したものであると考えられます。

繁殖力は旺盛で、わずか10年で存在感を示すようになりました。また、太田和では無紋型、山中町では有紋型など、明らかに複数の系統が別々の場所に持ち込まれています。

国というくくりの中では希少種として扱われていますが、新たに人が持ち込んだ地域にとっては外来生物となり、生態系のバランスに影響を及ぼすことが懸念されます。

影響

三浦半島には同じ樹上生のカエルとして、シュレーゲルアオガエルとニホンアマガエルがいます。彼らは体長3～5センチ程度と比較的小型で、水田など開けた水辺の近くの樹林を好み、小さな昆虫やクモなどを食べています。モリアオガエルは4～8センチ程度とより大型になり、生息場所も森林の深くにまでおよびます。ウマオイやセミなど大型の昆虫を捕食することから、モリアオガエルの生息数が増加すると樹上生の昆虫相に影響を及ぼすことが考えられます。特に、樹上性のキリギリスやカミキリムシ、ガ、カメムシの仲間には絶滅危惧種も多く、捕食圧がわずかに増えただけでもその存続が困難になる可能性があります。

一方でモリアオガエルの隠匿性は高く、天敵が樹上でモリアオガエルを見つけ出すことは困難です。また、ニホンアマガエルやシュレーゲルアオガエルが繁殖期を中心に水辺や林縁の開けた場所に比較的長く留まるのに対し、モリアオガエルは産卵のための数日間しか水辺に集まりません。

似ている緑色のカエル



モリアオガエル

三浦半島では

外来種

体長 4～8cm

- 鼻先はとがる
- 虹彩は橙色
- 指先に特に大きな吸盤がある
- 斑紋がある個体と無い個体がある
- 緑色以外に変化しない
- 鳴き声 カカカカ…ココココ… (低い)



シュレーゲルアオガエル

在来種

体長 3～5cm

- 鼻先はとがる
- 虹彩は黄色
- 指先に吸盤がある
- 茶褐色に変化する
- 鳴き声 キリリリ…コロコロ… (高い)



ニホンアマガエル

在来種

体長 3～5cm

- 指先に吸盤がある
- 鼻先が角張る
- 鼻、鼓膜、腹側面にかけて黒い帯が洗われる
- 灰褐色に変化する
- 鳴き声 ゲッゲッゲッ



三浦半島での分布傾向

太田和、山中町、湘南国際村、阿部倉、木古場、上山口、久木、池子等の公園の池や車道に面した水田や湿地等、特定の場所で個体数を増やしています。ペットショップで販売されているほか、地方に行けば容易に捕まえて持ってくる事ができるため、このような個体が人為的に持ち込まれたと考えられます。

1960年頃に三浦半島でモリアオガエルやカジカガエルの逸出個体がそれぞれ1個体発見され、まもなく姿を消したこともあります。しかし今回は、生息に適した水辺に一度に複数個体が同時期に放されたと考えられ、生態系に配慮しない生物愛好家が定着を目的とした意図的な放流を行ったと思われます。

また、樹林内の移動能力が高いため、緑地で連続する水辺には自力で分布を広げていく可能性があります。

生態

暑さに非常に弱く、夏の間は涼しい樹林の木陰で暮らしています。地上に降りることはあまりなく、普段は高木の樹冠で過ごします。ただし非常に観察しにくいので、繁殖期以外の生態はあまりわかりません。繁殖期は5月～6月で、卵を持ったメスが産卵する日の日没後に水辺に現れ、産卵が終了するとすぐに樹林内に戻っていきます。オスは繁殖期間中は水辺周辺に留まり、メスが来るのを待ちます。1匹のメスに対し複数のオスが包接することもあります。

水辺の上を覆っている樹木の枝先に、白い泡に包まれた卵塊が産み付けられます。産卵場所は、ここで孵化した幼生がそのまま水中に落下できるように決められています。水面からの高さは、1～10mにおよびます。産卵する樹木の種類にこだわりは無く、その樹木の立地で産卵場所に適しているかが決まります。



モリアオガエルの包接



ペットショップで販売されている個体



駆除の方法

非繁殖期に樹林の高木の樹冠に広く分散した個体を捕まえることはほぼ不可能で、産卵期に水辺に集まってきた個体なるべく多く回収することが有効です。捕獲は5月中旬から6月中旬にかけて、日中樹木の高いところにいる個体が産卵のために水辺に集まってくる19時以降に行います。

卵塊を産み付ける樹木等を中心に、鳴き声をたよりに個体の場所を特定します。コーラスは数分間隔で発生しますが、シュレーゲルアオガエルやニホンアマガエルの個体数が多くモリアオガエルが鳴かないこともあるため、あらかじめ収録したモリアオガエルの音源を大音量で再生し、それへの鳴き返しを利用します。

混み合った樹冠では網が入らないので、捕まえる際は木に登って素手で素早く捕まえます。また、メスは鳴きませんが、産卵中の、多くのオスに伴った状態で発見されることがあります。ただし、産卵のための数時間しか水辺に現れないため、オスよりも発見は困難です。

また、卵塊は目立つので容易に回収できますが、孵化した幼生(オタマジャクシ)を全て回収することは困難なため、孵化する前に発見し回収します。このように、モリアオガエルは産卵期のオスと卵塊以外を発見することは非常に難しいため、これらの回収を確実にを行い特定の生活環を断つことで駆除を目指します。



モリアオガエルの卵塊



駆除作業は夜間におこなう

注意

駆除は夜間作業のため、土地所有者や近隣の迷惑にならないよう配慮する必要があります。また、池の深みにはまったり思わぬ怪我をする可能性もありますので、捕獲は複数名で行いましょう。

